

西土佐の海岸から—浜の顔・砂の顔

＜須藤定久＞

西土佐の海岸を訪ね、さまざまな浜にであった。荒々しい磯浜には粗い砂が、静かな浜には細やかな砂があった。それぞれの浜の顔・砂の顔を紹介してみましょう(砂画像は直径1cm。詳細は本文p.47-55をご参照下さい)。



1. 小室の浜

小さな半島で守られた美しい弓状の浜で、背後には砂丘と松原がある。渚の砂は径2mm以下の分級やや不良な中～粗粒砂。砂岩・頁岩・貝殻が多い灰色の砂。



2. 小矢井賀浜

小さな入江にあるが太平洋の荒波が直接打ち寄せる。浸食されたテトラポッドから波の強さが、露岩についた海藻から磯の環境に近いことがうかがわれる。渚の砂は中～粗粒砂と細礫の混合物で、砂岩・頁岩・チャートからなる黒い砂だ。





3. 入野松原

土佐湾に面しているが、四万十川の河口北側の大きな入江の奥とも言える所にある。渚の砂は、径1.2mm以下の分級良好な中～粗粒砂。荒波に面した安定した砂浜らしい砂ではないでしょうか。



4. 平野の浜

入野松原南側の段丘崖の下の磯の間に発達した小さな浜。渚の砂は分級やや不良な中～極粗粒砂で細礫が伴われる。荒波に磨き上げられた褐色の石英が印象的である。

